

2022年7月1日

## 神戸学園都市 YMCA こども園 7月えんだより

7月の聖句「主に向かって心からほめ歌いなさい。」

エフェソの信徒への手紙 5章 19節～20節

毎日厳しい暑さが続いています。他の地域に続き、近畿地方でも早々と梅雨が明けたとのニュースが伝わってきました。観測史上、最も短い梅雨のようです。昨年は、近畿の梅雨入りが観測史上最も早い梅雨入りでしたが、後に1か月程度、梅雨入りの時期が修正されました。子どもたちが懸命にお世話をしているお野菜たちのためにも、梅雨らしい雨を期待し、今年も梅雨明けの時期の修正がなされることを祈ります。

今年は、コロナの影響で2年振りとなった「お泊り保育」を行うことができました。すみれ組のお友達もゆり組のお友達も初めての園でのお泊りでしたが、寂しくて泣いてしまうということもなく、笑顔で遊び、歌い、スヤスヤと眠る子どもたちの笑顔と寝顔が輝いた2日間でした。

すみれ組の時に「お泊り保育」を体験できなかった今年のゆり組のお友達は、引き続き7月の余島キャンプとなりますが、キャンプの楽しみを少しずつ毎日の生活の中にも取り入れていきます。この楽しみの一つが「キャンプソング」です。子どもたちが大好きな「漕げよマイケル」と「ロックマイソウル」。「漕げよマイケル」は、アフリカから強制連行され、アメリカ南部で奴隷として働かされた黒人たちが『天使ミカエルよ、舟をこいで私の魂を主の下（向こう岸）へ連れて行ってください。』と歌ったものだといわれています。そして、「ロックマイソウル」は高くて登れない主の崇高さ、低くてくぐれない主の懐の深さ、広くて回れない主の心の広さを歌ったものだといわれています。いずれも、奴隷として過酷な状況の中に置かれ、明日へに希望や夢など持てない中であっても主（神様）へ向かって賛美の歌を歌い合い、そのことによって主（神様）の救い、愛を見出していたものでした。

コロナ禍が長引く中、まだまだ日本中、そして世界中で多くの人々が困難な中に置かれています。気候変動により、年々被害の規模が大きくなっている自然災害によって困難な中に置かれている人々も増え続けています。ウクライナやミャンマー、シリア、リビア等々、戦争や紛争で衣食住のみならず、命までも奪われている人々も多くいます。このような時代の中でも主（神様）の愛を受け止め、隣人と分かち合うことを見失わないように歩んでいければと願います。「漕げよマイケル」を「ロックマイソウル」を子どもたちと歌いつつ・・・。

7月	乳児（0,1,2歳児）	幼児（3,4,5歳児）
月主題	いいきもち	やってみる
月の願い	*暑い夏の生活や、夏ならではのあそびを楽しむ中で、“いいきもち”をたくさん感じながら過ごしてほしいと思います。	*神様が作られた自然（水・土・光など）に触れながら、心や身体をたくさん動かして夏の遊びを楽しんでほしいと思います。
讃美歌	「どんどこんどこ」 こども改 106	「イエスさまいるってほんとな」 こども改 16